

## 新会員紹介

### 一般社団法人 日本 IHE 協会 大関 毅

大関 毅と申します。東京芝浦電気(株)に始まり、(株)東芝/東芝メディカルシステムズ(株)、キヤノンメディカルシステムズ(株)と都合 4 社に見えますが、社名が変わっただけで実は 1 社に 40 年間勤めてまいりました。定年退職後の雇用延長期間も終了し、昨年 11 月に退職いたしました。

出身は東京都北区です。公立の小中学校の義務教育終了後、国際人に憧れ海外留学を目指し在日米軍基地内アメリカンハイスクールに進学。在学中に従兄弟の入院で、病院にある医療機器の凄さに衝撃を受けた私は、将来は医療機器の研究開発がしたいと強く思い、医学部と工学部が強い南カリフォルニア大学(USC)の工学部/生物医療工学科に進学しました。

卒業後日本に帰国し医療機器の研究開発のできる東京芝浦電気(株)に入社。医療機器技術研究所で現在の PACS (Picture Archiving and Communication System)の前身である総合画像診断やデジジョンツリーの研究、東芝初の超音波カラードップラー診断装置の開発等を経験し、1985 年から東芝との共同研究先のアリゾナ大学医学部附属病院放射線科へ交換研究員として約 6 年半駐在し医用画像診断の為の高解像度 CRT モニタの物理特性や読影視覚心理実験など PACS の要素技術の研究を行い、また、現在の DICOM (Digital Imaging and Communications in Medicine)の前身である米国放射線学会 (ACR: American College of Radiology)と米国電子機器工業会 (NEMA: National Electronic Manufacturing Association)の ACR-NEMA 規格委員会に参画し、1994 年に DICOM 委員会に変わっても医用画像診断装置間接続仕様の規格化に参画してきました。また、アリゾナ大学駐在期間が当初 2~3 年とのことだったので大学院 MIS (Management Information System) 修士課程を終了させて頂きましたが、1 年毎に延長され結局 6 年半の駐在となりました。その後、1992 年から 1995 年までは東芝アメリカ MRI 社に転勤駐在して米国内での磁気共鳴画像 (MRI: Magnetic Resonance Imaging)の製品開発に従事し、その間も引き続き DICOM 委員会の規格作成会議に参画させて頂きました。1995 年に帰国した後は、東芝医療機器事業部にて超音波画像/内視鏡画像用の PACS を企画/事業化し、更に発展させた X 線アンギオ動画像/超音波動画像を使った循環器動画像 PACS の企画/開発/事業化に従事しました。また、日本に帰国後も ACR-NEMA/DICOM 発足当時からの委員会活動の経験と人脈を生かして、日本における IHE (Integrated Healthcare Enterprise) 委員会発足時より循環器技術委員会委員長(共同委員長)や接続性検証委員会活動に参画し、4 年程前から 3 年間接続性検証委員会委員長としてもコネクタソンの企画/運営を経験させて頂きました。昨年キヤノンメディカルシステムズ社を退職した現在も元委員長という経験を生かして、日本 IHE 協会の一般会員として循環器委員会及び接続検証委員会の活動にはアドバイザー的に協力させて頂いております。今後とも宜しくお願い申し上げます。